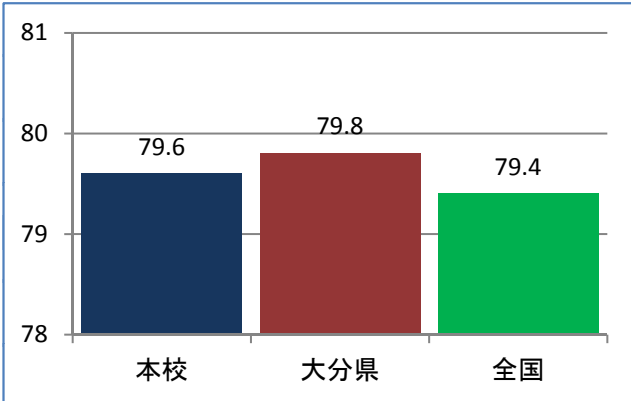


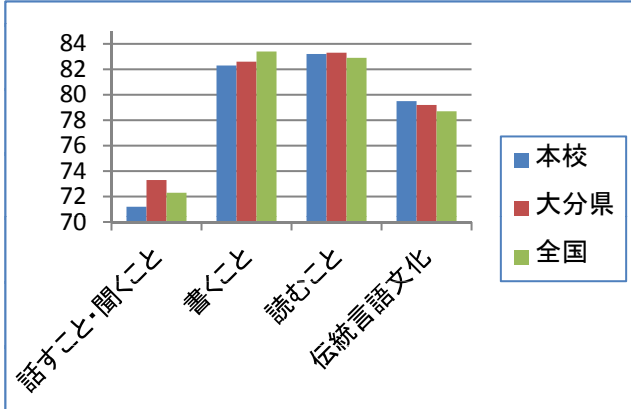
# 佐伯市立鶴谷中学校 3年 国語 全国学力・学習状況調査

## 【国語A:主として「知識」に関する問題】

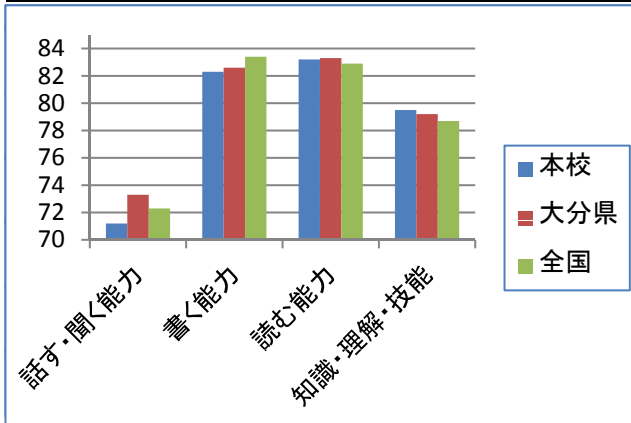
正答率	本校	大分県	全国
国語A(知識)	79.6	79.8	79.4



領域別正答率	本校	大分県	全国
話すこと・聞くこと	71.2	73.3	72.3
書くこと	82.3	82.6	83.4
読むこと	83.2	83.3	82.9
伝統言語文化	79.5	79.2	78.7

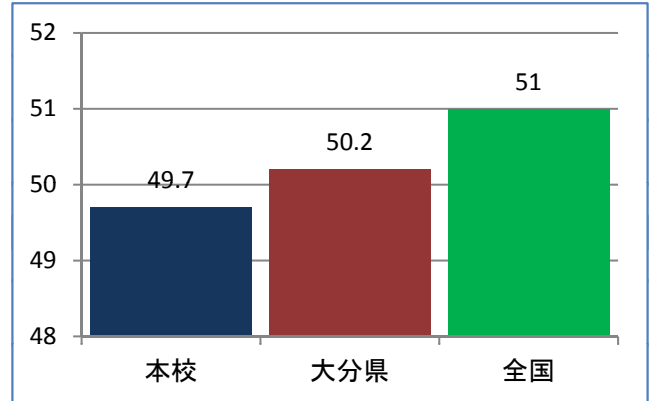


観点別正答率	本校	大分県	全国
話す・聞く能力	71.2	73.3	72.3
書く能力	82.3	82.6	83.4
読む能力	83.2	83.3	82.9
知識・理解・技能	79.5	79.2	78.7

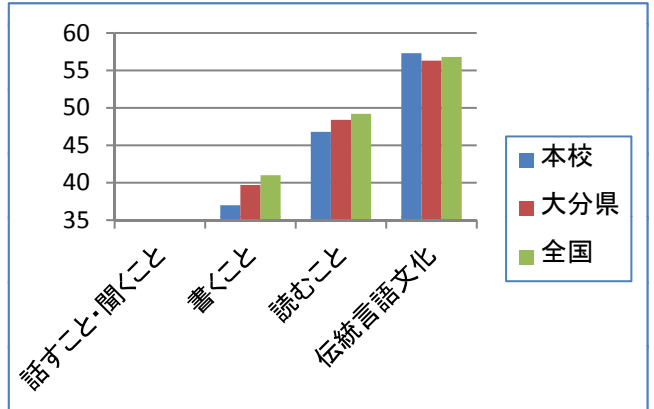


## 【国語B:主として「活用」に関する問題】

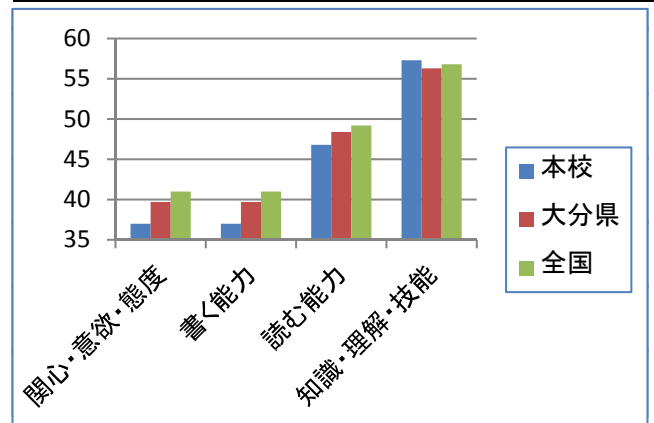
正答率	本校	大分県	全国
国語B(活用)	49.7	50.2	51.0



領域別正答率	本校	大分県	全国
話すこと・聞くこと			
書くこと	37.0	39.7	41.0
読むこと	46.8	48.4	49.2
伝統言語文化	57.3	56.3	56.8



観点別正答率	本校	大分県	全国
関心・意欲・態度	37.0	39.7	41.0
書く能力	37.0	39.7	41.0
読む能力	46.8	48.4	49.2
知識・理解・技能	57.3	56.3	56.8



## 【分析結果】

○主として「知識」に関する問題(A問題)では全国平均を上回っているが、主として活用に関する問題(B問題)では、全国平均を下回っている。

## 【改善方法】

○平均を下回り、特に指導法の改善が必要とされている事項について、次に示す様に指導法の改善を図る。

### 《話すこと、聞くこと》

**課題 A** 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することに課題がある。

**改善** 互いの発言を検討するには、それぞれの意見の共通点や相違点を整理しなければならない。板書の際は、内容を示すだけではなく、対照的な内容を一目見て分かるように書く工夫を行う。また、生徒に目的や場面に応じたメモの取り方の指導を行い、話し合い等しながら意見の整理を行うことができるようにする。

### 《書くこと》

**課題 A** 集めた材料を分類して整理すること、多様な方法で材料を集めながら考えをまとめることに課題がある。

**改善** 文章、特に紹介文や報告文を書く場合には、誰に(相手)、何のために(目的)、どのように(方法)を意識し、書く材料を分類、整理して伝えることが必要となってくる。Webページや紹介パンフレットなど、具体的なものを作成する学習活動を取り入れ、発信の際には相手目的、方法を意識できるようにする。

**課題 B** 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

**改善** 「伝えたい事柄を明確にする」「根拠を明確にする」力をつけるには、他の人に向けた説明をすることが効果的である。授業の中で、グループの中で説明する機会を設け、説明に不足はないかや根拠の妥当性について検討する学習活動を入れ、課題を改善できるようにする。

### 《読むこと》

**課題 A** 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することに課題がある。

**改善** 登場人物の気持ちやその変化は、セリフ、表情、行動や情景描写に表れることが多い。まず、教科書を読む際にその部分に線を引かせ、その後、音読や朗読などの学習活動で、線を引いた部分をどのように読むかを考えさせる等の工夫をし、内容や心情を理解できるようにする。

**課題 B** 文章や落語に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つことに課題がある。

**改善** 学習の最後に、自分の意見や考えたことを発信する言語活動、例えば、「昔話と古典を読み比べ、その内容やテーマについて紹介する活動」などを設定し、基礎的・基本的な知識・技能を使いながら、自分の考えまとめる経験を積み重ねさせることで、課題を改善できるようにする。

### 《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

**課題 A** 語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うことに課題がある。

**改善** 話や文脈の中で使われている語句の意味を考え、似た意味を表す他の言葉に言い換えたり、その言葉を使って別の短文をつくり、その短文が適切であるかを検討するなどの学習活動を取り入れることで、語句を文脈の中で適切に使うことができるようにする。

**課題 A** 辞書を活用して語句の意味を適切に書くことに課題がある。

**改善** 新出語の意味を調べるためだけに辞書を活用するのではなく、多義的な語句について、辞書に載っている複数の意味や用法の中から文脈にあったものを選ぶなどの活動を行い、課題を改善できるようにする。

### 〈参考文献〉

文部科学省平成26年度 全国学力・学習状況調査報告書

平成26年度 全国学力・学習状況調査報告書解説資料【中学校国語】

(国立教育政策研究所)

言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】

(文部科学省)

[平成21年度～平成26年度]全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

授業アイデア例【中学校版】

(国立教育政策研究所)

# 学力向上のための具体的な取り組みの例

## 国語科①

### 指導の概要

指導のねらい	文章を読んで、着目した部分やその理由を明確にして、自分の意見や感想を的確に書き表すことができるようにする。
結果の概要	資料を効果的に活用して情報を引きだし、話し合いを進めることは、正答率がほぼ全国と同じで3項目とも75%を超えている。 【A1 一・二】【A6 二】
領域・内容	【第1学年】 B：書くこと イ：伝えたい事実や事柄、課題および自分の考えや気持ちを明確にすること。 【第2学年】【第3学年】 C：読むこと エ：文章を読んで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。

### 授業の流れ

第1次	<ul style="list-style-type: none"><li>・新聞記事を読み、教師から補足の説明を受ける。</li><li>・「校長先生の判断」について、「賛成」「反対」の立場で自分の意見をまとめる。</li><li>・グループの中で個人の意見を発表させ、グループとしての意見をまとめる。</li></ul> ※「司会者」「計時」「記録」などの役割分担を提示する。
第2次	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ毎にまとめた意見を板書する。</li><li>・出された意見について、意見交換をする。</li></ul>

# 「『故郷』を読んで、映画パンフレットをつくろう。」

～作品に表れているものの見方や考え方について、自分の意見を持つ～

## 国語 読むこと・文学〔B1二、3三〕（〔A3一〕）

文章や落語に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えを持つこと、また、その自分の考えを根拠を明確にして具体的に書くことについて、課題が見られました。

そこで、「故郷」を映画化すると仮定して、その映画パンフレットをつくる学習を提案します。パンフレットには主人公である「私」と「閨土（ルントウ）」の人物像、人物相関図、「私」と「閨土（ルントウ）」を演じる役者が、どのような思いで演じたかを語るコメントの3つを入れることを条件とします。

話の展開、場面や登場人物の設定、登場人物の関係や人物像を描いた語句を根拠として登場人物の心情を想像し、演じる役者がどのような思いで演じたかを語るコメントを考える活動を通して、登場人物のものの見方や考え方を捉え、自分なりの考えを持つことを狙いとします。

### 学習の流れ 6時間

映画のパンフレットを使い、「故郷」の映画パンフレットをつくる学習のねらいや進め方をつかむ。

人物像を表す語句に注意しながら、「故郷」の本文を読む。

（1時間扱い）

人物相関図を作成することを意識しながら「故郷」の文章を読む。

人物相関図を作成することで、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、登場人物の心情を読み深める。

（2時間扱い）

登場人物を演じる役者がどのような思いで演じたのかを考え、登場人物のものの見方や考え方を捉える。

今までの学習内容をまとめパンフレットを作成する。できあがったパンフレットを交流し、考えを広げる。

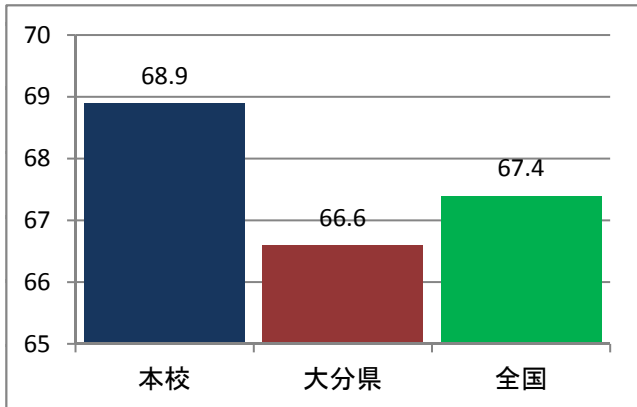
（3時間扱い）

言語活動 「『故郷』を読んで、映画パンフレットをつくろう。」

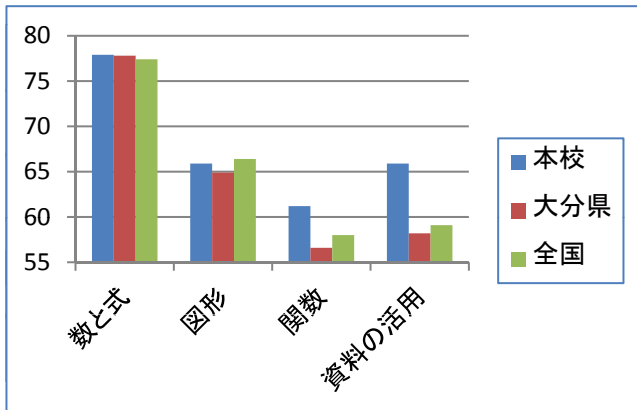
# 佐伯市立鶴谷中学校 3年 数学 全国学力・学習状況調査

## 【数学A:主として「知識」に関する問題】

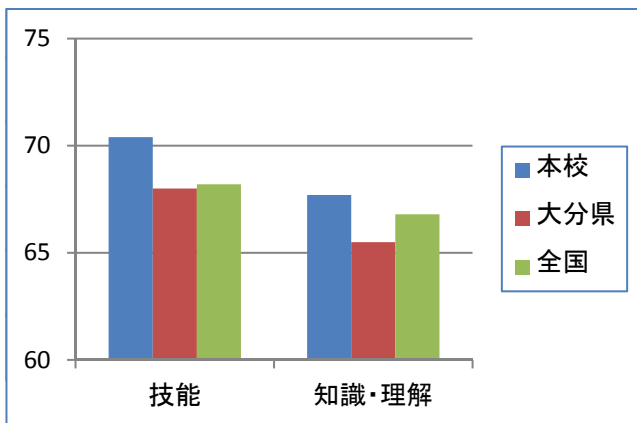
正答率	本校	大分県	全国
数学A(知識)	68.9	66.6	67.4



領域別正答率	本校	大分県	全国
数と式	77.9	77.8	77.4
図形	65.9	64.9	66.4
関数	61.2	56.6	58.0
資料の活用	65.9	58.2	59.1

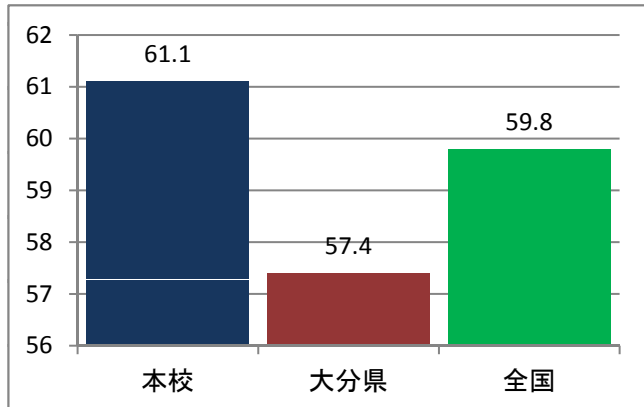


観点別正答率	本校	大分県	全国
技能	70.4	68.0	68.2
知識・理解	67.7	65.5	66.8

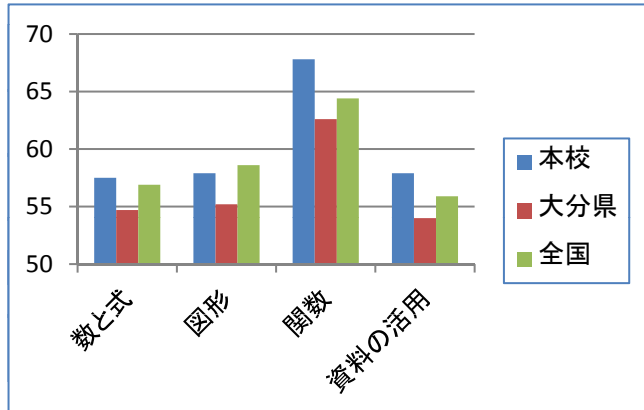


## 【数学B:主として「活用」に関する問題】

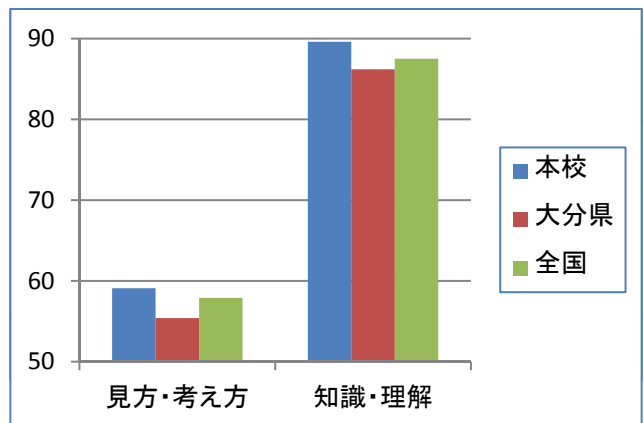
正答率	本校	大分県	全国
数学B(活用)	61.1	57.4	59.8



領域別正答率	本校	大分県	全国
数と式	57.5	54.7	56.9
図形	57.9	55.2	58.6
関数	67.8	62.6	64.4
資料の活用	57.9	54.0	55.9



観点別正答率	本校	大分県	全国
見方・考え方	59.1	55.4	57.9
知識・理解	89.6	86.2	87.5



## 【分析結果】

○主として「知識」に関する問題（A 問題）及び主として「活用」に関する問題（B 問題）共に、全国・県平均を上回っている。

## 【改善方法】

○全国平均を下回っている項目について、次に示す様に指導方法の改善を図る。

### 《数と式》

**課題** A 分数の除法の計算

**改善** 授業において分数式の計算方法を説明し、練習問題を解かせる。

**課題** A 分数を含む一元一次方程式

**改善** 等式の性質を利用して与えられた方程式を簡単にすることを押さえる。更に簡単にした方程式を移項等を用いて計算できるようにする。（ドリル学習の活用）

### 《図形》

**課題** A 図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ること。

**改善** 回転移動の意味を押さえる。実物の模型等を利用して、移動前と移動後の対応する辺や角を視覚的に捉えさせる。

**課題** A 平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について問う問題

**改善** 空間図形が平面図形をその面と垂直な方向に移動させてできる立体であることをICTを活用して視覚的に捉えさせる。

**課題** A 記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ること。

**改善** 記号の意味を一つずつ押さえる。

**課題** A 三角形の外角の性質を利用して解く問題。

**改善** 三角形の外角の性質を何故成り立つのかを考えさせることによって定着させる。更にその性質を使った練習問題に取り組みさせる。

### 《関数》

**課題** A 与えられた式を基に、2つの数量の間の関係が比例であることを判断する問題。

**改善** 関数の意味を押さえ、2つの数量の関係が比例である関数とはどういう関係になっているときか表、グラフ、式を相互に関連づけ、比例を理解する活動を充実させる。

**課題** B 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する問題。

**改善** 事象を理想化や単純化した結果の意味をきちんと押さえ、そのことを利用して問題解決する方法を様々な事象を例にとり、考えさせる。

**課題** B グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる。

**改善** グラフの持つ意味を考えさせ、物事を論理的に説明する手段としてグラフ等を利用して説明する活動を充実させる。

### 《資料の活用》

**課題** A ヒストグラムにおいて、中央値の意味を問う問題。

**改善** 資料の傾向を読み取る活動の中で中央値の求め方の理解を深められる活動を充実させる。

## 【その他の取り組み】

- ・定理等図形の性質が何故成り立つのかの理由を考えさせる活動を充実させる。
- ・グループ学習や教え合い学習においてどうしてそうなるのかを考えて、発表させる時間をとる。
- ・授業においては習熟度別のコース編成を行う。また、グループ学習や教え合い学習を取り入れ、言語活動の充実に努める。
- ・1時間完結型授業の継続した実践を行う。
- ・板書の構造化。見直しのできるノートを作成。1時間の授業の流れや目標とまとめをきちんと書かせる。
- ・朝ドリルにおいて、基礎的計算の反復練習をする。
- ・家庭学習において、定期的に授業の復習プリントを配布し、行わせる。
- ・テキストを使った復習問題を課題として与える。
- ・入試問題を意識した練習問題に取り組みさせる。

# 学力向上のための具体的な取り組み例

## 数学科

### ① 指導の概要

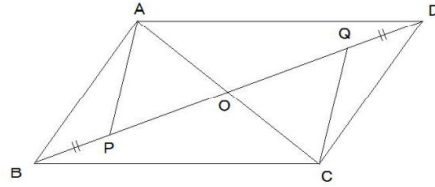
指導のねらい	証明の方針を立てる活動を通して、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質を見いだしたりできるようにする。
結果の概要	「Ⅰ．結論を示すためには何がわかればよいか。」「Ⅱ．仮定からいえることは何か。」「Ⅲ．ⅠとⅡを結びつけるには、あと何がいえればよいか」を考え、証明の方針を立て、その方針に基づいて考えていけば証明の正答率が上がっている。
領域・内容	領域…図形 第2学年…「平行と合同」、「三角形と四角形」 第3学年…「相似な図形」「円」

### ② 授業の流れ

1時間の授業における流れの手順	Ⅰ．証明の方針を立てる。 ①結論を示すためには何がわかればよいか考える。 （どの三角形に着目するか。） ②仮定からいえることは何か考える。  ③ ①と②を結びつけるにはあと何がわかればよいか考える。  Ⅱ．立てた方針に基づいて証明する。（証明のパターン沿って書く）
-----------------	---

**問題**

右の図のように、平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O とし、線分 OB、OD 上に  $BP=DQ$  となる点 P、Q をそれぞれとります。このとき  $AP=CQ$  となることを証明しなさい。



**I. 証明の方針を立てる。**

- ①  $AP=CQ$ であることを示すためには、どの2つの三角形に着目すればよいか考える。
- ②  $\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ に着目し、辺や角について、仮定から等しいといえるものがないか考える。
- ③ ①、②を結びつけるにはあと何がわかればよいか考える。  
また、なぜ等しいのかを理由を考えまとめる。
- ④ 証明のパターンに従って実際証明してみる。

**II. 立てた方針に基づいて証明する。**

**(証明のパターン)**

$\triangle$  ( ) と  $\triangle$  ( ) において、  
仮定より、 ( ) = ( ) … ①  
(理由)より ( ) = ( ) … ②  
(理由)より ( ) = ( ) … ③  
①、②、③より ( 三角形の合同条件 ) ので  
 $\triangle$  ( )  $\equiv$   $\triangle$  ( )  
合同な図形の対応する辺の長さや角の大きさは等しいので  
( ) = ( ) (結論)

\*他の三角形に着目し、ポイント①～④の流れに沿って考えてみる。

◎証明するためには、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質を  
いだしたりして、証明の方針を立てることが大切である。